

足立議員を励ます会



『建設産業再生』に加え、『インフラ再生』を掲げて活動する考えを示した。

足立参院議員は、当選からの2年間で建設産業再生を掲げて活動してきたことを振り返り

ながら、今後は「もう1つの柱として、インフラ再生も訴えたい」とした。財務省の財政制度等審議会が建議で「日本の社会インフラは概成しつつある」としたことを引き合いに「日本のインフラは概成を迎える前

に老朽化を迎えている。日本のインフラがいまの水準で良いのかも見直すべき」と強調した。「事前予防をしなければ守れた災害があったのではないか。4割が暫定2車線となっている高速道路は、世界に冠たる道路なのか」と事例を示しながら、「いま社会資本に投資しないと、後世の人はメリットを享受できない。防災投資をしないことは、災害発生

“インフラ再生”旗印に

建設産業界の職域代表として国政での活躍を続ける足立敏之参院議員を励ます会が29日、東京都千代田区のホテルグランドパレスで開かれた。会場に詰め掛けた支援者ら約1000人を前に足立議員は、これまでキャッチフレーズとしてきた

を看過することであり、投資しないことこそ後世への付け回しではないか」と力を込めた。

建設産業界を代表して祝辞を述べた日本建設業連合会の山内隆司会長は「公共投資しない方が後世への付け回しになるという発言は、わが国の自然災害の現状を熟知しているからこそできる発言だ。豊富な知識と経験に裏打ちされた情報発信に今後も期待している。われわれの思いの代弁者として、全力で支援する」と期待を寄せた。

また、中締めの音頭を取った全国建設業協会の近藤晴貞会長は「2年間、精力的に活動し、現場に足を運び、政策に反映していただいている。これからも予算確保はもちろん、事前防災の実現に向け尽力してほしい」と締めくくった。